

ヤング・タレント・コンペティション

2020年優勝者

2020年10月22日ジュネーブ

2015年より開催されているヤング・タレント・コンペティションは、世界中の最も優秀な次世代の若い時計師の卵を発掘し、彼らにスポットライトを当てることで、独立への道をサポートしてきました。

F.P.ジュルヌは、2019年よりアジア太平洋地域のラグジュアリーウォッチのリテーラーであるThe Hour Glassの協力を得てヤング・タレント・コンペティションを開催します。これら2つのメゾンは、高級時計製造を永續させるための支援を行い、時計製造に必要なクラフツマンシップへの見解を深める目的を持っています。

彼らの審査基準は、参加者の技術的な功績、実現困難なものへの追究、構想と審美性の感性に基づいています。応募者は自身でタイムピースおよび技術的作品を設計し実現しなければなりません。2020年の優勝者は証書と時計製作ツール購入または時計プロジェクトのための2万スイスフランの補助金をThe Hour GlassとF.P.Journeより授与されます。

2020年のヤング・タレント・コンペティションの審査委員会は次の時計業界の国際的なキーパーソンにより構成されます： Philippe Dufour/フィリップ・デュフォー、Andreas Strehler/アンドレア・ストレーラー、Giulio Papi/ジュリオ・パピ、Marc Jenni/マルク・ジェニ、Michael Tay/マイケル・テイ、Elizabeth Doerr/エリザベス・ドール、François-Paul Journe/フランソワ・ポール・ジュルヌ。

2020年の優勝者は

Norifumi Seki/関 法史

球形ムーンとドラムのカレンダー搭載ポケットウォッチ

23歳 - 東京 - 日本

ヒコみづのジュエリーカレッジ卒業 - 2020年3月

プロジェクト

私の通っていた時計学校では、志願者は一年かけて自身の時計を設計することができるコースを受講していました。そこで、私はこの時計を卒業製作のプロジェクト/作品に選ぶことにしました。高い視認性をもたらす大きなムーンフェイズを備えた時計を作ることに興味を持っていたので、この特殊なコンプリケーションを製作したいと思いました。通常使用されるディスクの種類では、デザインの可能性が大きく制限されてしまいます。そのため、最良の視認性を可能にする球体を使って時計を作ることを選択しました。

挑戦

私はカレンダーの垂直表示が自身の望むようには機能しないという困難に直面していましたが、ムーン表示は完璧に機能していました。さらに上手くテンプを再設計し製作することに非常に苦労しました。そして、私はまだカレンダーのクイックジャンプを改良したいと考えています。チタニウムで完全に製作された直径20mmの球形ムーンは、ケース側面に組み込まれたプッシュボタンで調整が可能です。ムーンの1/3は熱間ブルー加工され、他の2/3の表面はゴールドで覆われています。

クラシック・カレンダーは、数字のための2つのドラムをそれぞれに備える2つの大きな窓で表示されます。左の窓には月、右の窓には日付が表示され、これらの表示は12時位置のリユズにより調整できます。カレンダーは、ディスクでなくドラムにより表示されるためムーブメントの平面に垂直なギアにより駆動されます。

ムーブメントの設計：ムーブメントの構成部品は、一から製作したものとテストキャリバーからとったものを組み合わせています。私が完全に製作した部品は、地板、カレンダー機構、ムーン機構です。香箱から4番車の大部分の輪列は、その堅牢性と信頼性の高いエネルギー伝達により、複雑機構のためのベースムーブメントとして長年愛用されるValjoux7750から取

っています。しかし、私はテンプを大きくするため、4Hzでなく3Hzでムーブメントを駆動させたかったので、脱進機はPeseux7040からのものを使用しました。そして、4本アームのテンプを製作し、7750からのヒゲゼンマイと組み合わせました。結果的に、テンプ受けは7750のEtachron緩急針を保持しました。ムーブメントは18Kイエローゴールド色で、ペルラージュとコート・ド・ジュネーブの装飾が施されています。テンプ受けと脱進機の受けは、手作業で彫金されています。時計の外装部品も私自身で製作しました。文字盤のギョーシェ装飾は機械加工の様にみえますが、ギョーシェの機械を使うことが出来なかったため、旋盤によりエングレービング加工を行いました。シルバー文字盤の色は、薄めた硫酸を使う伝統的な方法で施されました。針は、熱加工でのブルースティールとゴールドプレート加工の真鍮で一から作り直しました。

技術仕様： ケース：18Kイエローゴールドでめっきの真鍮製 - 幅：4.7cm - 厚み：2.3cm - 長さ：6.3cm - 総重量：140グラム。リュウズと鑑も18Kイエローゴールドでめっきの真鍮製。ムーブメント：18Kイエローゴールドでめっき、ペルラージュとコート・ド・ジュネーブ装飾、テンプ受けと脱進機の受けは手作業で彫金。文字盤：ギョーシェ彫り仕上げでシルバーめっき。ムーブメント：チタニウム製で直径20mm、一部ゴールドめっき。針：熱加工によるブルースティールとゴールドめっきの真鍮製

過去の受賞者の活躍

レミー・クールス

2018年

レミー・クールスは、独立時計師として彼の最初のツールビヨン腕時計を完成させました。独自のロック機構を備えた巻き上げと時刻調整のための2つのリュウズが独特な方法でケースの裏側に配置された、直径40mmのステンレススティール製の時計です。文字盤上の6時位置には直径15.5mmの堂々たるツールビヨンが配置され、その対称にある12時位置には手作業で彫金されたシルバーの時分表示のカーブした文字盤があります。時計全体は7mmの厚さの見事なドーム型のサファイアクリスタルによって昇華されています。この時計はブラックポリッシュ（鏡面）仕上げ、エングレービング/彫金、研磨仕上げされた面取りなど、伝統的そして現代的な仕上げを組み合わせています。時計の目に見える部品、そして見えないものすべて手作業で仕上げられています。レミー・クールスのツールビヨンは、予約販売で購入することができます。

<https://www.remycools.com/>

<https://www.instagram.com/remycools/>

テオ・オフレ

2018年

パリ近郊のセヌ河畔にある彼の工房で、テオ・オフレはお客様から指定された金属で研磨仕上げされ側面がブラッシュ仕上げの直径38.5mmのケースを製作し、パリで初めてのツールビヨンを完成させました。直径14mmのツールビヨンはスティール製、ムーブメントはチャコール加工のされたニッケルシルバー（洋銀）で、ヒゲテンプは21'600振動/時で鼓動します。輪列のカナはすべての歯が職人作業で作られ、熱処理のあとツゲの木で研磨仕上げされます。歯車プレートは、手作業のやすりがけで面取りされ、サーキュラー仕上げ（円形）のライン施し、ゴールドプレート加工で仕上げられます。ソリッドシルバーで製作された文字盤は、火を使ってホワイトニングされ、24Kゴールド製のインデックスが配置されます。針は手作業で旋盤加工され、やすりがけされます。予約販売で20本製作されます。

<https://auffret-paris.com>

www.fpjourne.com

「独立したF.P.ジュルヌのマニュファクチュールは、ブランド独自の“傑出した特徴”である18Kローズゴールド製ムーブメントを搭載した機械式腕時計を年間最大900本製作しています。Invenit et Fecit（発明し製作した）の銘は、すべての時計に刻まれており、社内工房において完全に設計製作された自社キャリバーの高い価値と精度を保証しています。

F.P.ジュルヌは、ヤング・タレント・コンペティションを開催し、真正な高級時計製作において40年以上に亘る独自の専門技能を持ってサポートします。フランソワ・ポール・ジュルヌの歴史に関する知識により、彼の継続的な精度と革新の追求において、時計製作上最も斬新な課題に挑んできました。彼にとって、時計製作に関する知識、情熱、そして確固たる信念を共有することで優秀な若者を支援することは本当に光栄なことであると考えています。彼が若い頃、同様の支援を受け助けたように時計製作の未来を担う若い彼らをサポートしたいのです。」

www.thehourglass.com

「The Hour Glass においての私たちの使命は、時計文化を前進させることです。考え抜かれたブランドの選択、他にはないリテールの経験に浸っていただくための情熱、豊富な知識を備えるウォッチスペシャリストチームとして知られる私たちは、時計愛好家やコレクターから第一に名前が挙がるような店舗作りに努めています。アジア太平洋地区の38のブティックネットワークにおいて、日頃から皆様の時計に対する認識や評価を高め、お客様の最上のタイムピースを見つけるためのお手伝いをする用意を常に整えています。」

2020年のヤング・タレント・コンペティションの優勝作品の画像は、E-メールのページの下のボタンをクリックまたは弊社ウェブサイト: <https://www.fpjourne.com/en/press> よりダウンロードしてください。

MONTRES JOURNE JAPON K.K.
COLLEZIONE, 6-1-3 MINAMI-AOYAMA, MINATO-KU, TOKYO 107-0062, JAPAN
PRESS: Yuki Kitano ykitano@fpjourne.com
T +81 (0)3 5468 0931 F +81 (0)3 5468 1930

WWW.FPJOURNE.COM